



小川小学校

学校だより

○ 考える子 ○ 優しい子 ○ 元気な子



令和3年7月13日 No.14

《整頓の先にあるもの》

先日校舎を回っていると、6年生が使うトイレのスリッパが整然と並べられていました。誰かが時間をかけて整頓しているのではなく、一人一人が無意識の中でも、整頓して並べるところを身に付けている姿の現れです。

「整頓」とは、「必要なものがすぐに取り出せるように、置き場所・置き方を決めておくこと」です。学校は集団生活ですから、置き場所・置き方は細かく決められています。しかし、きちんと置けるようになるまでの習慣には、しつけが必要です。そして、習慣は、繰り返しの指導と見届けにより育っていきます。整頓された6年生のトイレのスリッパは、家庭と学校との両面から育てた結果だと考えます。

先日、ある学校だよりを拝見していたら次の記事が掲載されていました。

「浦和レッズハートフルクラブ」のサッカー教室が実施されました。サッカー体験の前には、クラブキャプテン落合弘氏の講話がありました。落合氏は、浦和市立高校時代に高校選手権に2大会連続出場し、三菱重工業サッカー部で日本サッカーリーグに参戦、その後、日本代表のキャプテンとして活躍した方です。選手時代やコーチ時代の話の中で、「思いやり」について熱く語る姿が印象的でした。（以下落合氏の話）

「一流の選手になるためには、一生懸命に考え、一生懸命に行動することが大事である。サッカーは、ゴールまでにたくさんのパスが繋がる。上手なパスは、相手が次にどう動くかを考え、そのためにどこへの強さのボールを出すのがベストなのかを考えたパスである。常に状況が変わる試合中、瞬時に判断するためには、日頃から相手の気持ちを思いやった行動を身に付けること(=習慣)が必要だ。」

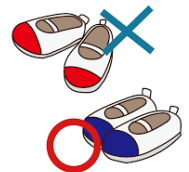
トイレのスリッパをどう置いたらいいか考えたことはあるだろうか。次の人が履きやすいようにそろえておく、その行動が習慣化された人が、試合中の瞬時の判断ができる選手である。相手の立場に立って一生懸命に考え、行動しないとサッカーは上手にはならない。トイレのスリッパの整頓は、相手を思いやる心『思いやり』につながっている。」

また、長野県の円福寺の藤本幸邦さんがお書きになられた「はきものをそろえると心もそろろう」という詩を紹介します。

はきものをそろえる

藤本 幸邦

はきものをそろえると 心もそろろう
心がそろると はきものもそろろう
ぬぐときに そろえておくと
はくときに 心がみだれない
だれかが みだしておいたら
だまって そろえておいてあげよう
そうすれば きっと
世界中の人の心も そろうでしょう



この詩の中にある「心もそろろう」という表現が心にささります。

「心もそろろう」とは、どのようなことを伝えたいのでしょうか。自分の靴を揃えることは、自分の行動が他の人をどんな気持ちにさせるかまで考えが及ぶ優しさがあること、と私は読み取りました。

コロナ禍の厳しい状況の中だからこそ、子供たちと「心もそろろう」日々を大切にしていきたいと思います。

